

# 全医労保育所ニュース

## 院内保育所も病院も笑顔でイキイキと働き続けられる職場にしよう!



長年、保育所運動をけん引して来られた田中先生、本田先生を囲んで記念写真

### 第43回保育所会議に61人が参加 語って、学んで、交流しました

全医労は6月7～8日に全医労会館で第43回保育所会議を開催しました。地区・地方協代表・傍聴含め61人が参加し、語り合い、学び合い、楽しく交流し、今後の運動の意思統一を行いました。

#### 機構として保育所運営に責任を持つ

会議に先立ち6日には地方協代表による国立病院機構本部へ要請を行いました。日本医

労連の煙崎中央執行委員を先頭に12人が参加

冒頭、一医師・看護師確保対策の強化と院内保育所の充実に関する要請書と昨年9月からとりくんだ機構理事長宛の個人要求署名58筆を提出しました。国立病院機構の保育所の位置付けと存続・拡充、

保育所職員の賃金・労働条件、実態に見合った職員の確保、老朽園舎の建替え、必要な物品の補充、災害訓練対策など病院が保育所の設置・運営に責任を持ち、対応を図るよう訴えました。

#### 全医労会館で

#### 保育所会議を開催

翌7日には2回目の開催となる東京・大塚「全医労会館」で保育所会議を行いました。

1日目は佐藤副委員長の司会で進行。岸田委員長の挨拶、中丸副委員長の基調報告、川棚支部の五反田さんから前日の機構本部要請の報告、宇都宮支部の枝野さんが「関信保育所部会のとくくみと各園の状況」について特別報告を行いました。

#### お母さんの働き方が 保育所、子どもに影響

全体討論では22人の方から活発な発言が続き、それぞれの園で抱えている問題や悩みが出されました。

「授乳時間（保育時間）を取るお母さんが少なくなっている」「前超勤のため、開園時間を早めてほしいという要望がある」「育児短時間勤務を取っていても、超勤でお迎えが遅くなる」「二交替や多様な勤務形態が増え、子どもと一緒にいることが極端に少なくなっている」「仕事大好きなお母さん。子どもの将来が心配」「土曜・祝日開園の要望が強くなっている」「開園時間がこの10年で10時間から12・13時間と長くなっている」「院内保育所としてできるだけ保育をしてあげたいが、親子の時間が短くなり、逆



東静・古沢さん



相模原・深津さん

かと思う」など、お母さんである病院職員の厳しい勤務実態が与える影響は大きく、保育所と子どもへしわ寄せがきていることが浮き彫りとなりました。

一方で、「病院から子育て期間は迎える時間が厳守されている」「育児短時間勤務や育児休暇の制度が十分に利用



北医セン・成田さん



徳島・佐野さん



浜田・山元さん

できている」などの意見もありました。

さらに「園児の健康診断実施が毎年憂鬱」「ピジョン交渉で勝ち取った権利、賃金改善が非組合員にも一律となり、納得がいかない」「お得な医労連共済で100%組合に」「看護師はシングルマザーが



大阪医セン・中島さん

多く、長く子どもをあずけ仕事をしている。でもその影響で保育士さんの大変な働き方がわかった」「送り迎え時の交通事故が心配。支部団交で改善策を練っている」「定年を迎えるが、長年運動してきた成果で退職慰労金支給が実現した。組合に入っていてよかった」「保護者の組合離れも進んでいるが、入園時に保育園の歴史も話し、受け入れをしている」など多くの意見も交わされ、翌日の分散会でさらに深めることとしました。

続いて、現役保育士・小内康寛先生を迎えて保育実技研修を行い、子どもの発達に欠かせないリズム体操を学びました。



琉球・宜野座さん

## 「子どもの発達とリズム」を学びました

今年の保育所会議では初の試みとして保育実技研修を行いました。講師は、東京都練馬区北町保育園で保育士をしている小内康寛（おないやすひろ）先生。横浜でリズムの講習会を終えた小内先生。ジャージ姿で駆けつけて下さいました。

まずは資料を使って「なぜリズムをするのか？」を説明。「正しい直立二足歩行ができるためには、赤ちゃん時代の運動が基礎になる」「外反母趾や扁平足は中足指節関節ができる6ヵ月での親指を使った寝返りが大切」「よけられない・ぶつかってしまう・ひねることができないなどは混合遊びで解決」「自律神経を育てるには、血液を流れるようにすることが大事」「走って止まることで心臓の動きを活発化する、飛び跳ねることで血圧を上下させる、汗をかく運動の3点を保障する運動を進める」「運動で完成するのは6歳半」「赤ちゃん時代（横の時代）に獲得するリズムと、1～4歳代に獲得するリズムをしっかり遊びの中で取り入れよう」など、①正しい身体の機能を発達させ、正しく使えるようにすること、②体で表現し、リズム感を養うこと、③仲間を育み楽しむことを目標とするリズムの重要性をわかりやすく説明して下さいました。



ジャージが普段着・小内先生

そのあとは、実際に裸足になって、我こそはと思う人が先生の動きや歌に合わせて実技を行いました。「どんぐり」（寝返り）から始まり、「ハイハイ」「金魚」「とんぼ」「フラミンゴ」などリズムの具体例を実践。本来なら参加者全員で広い体育館で実践したいところでしたが、軽々とリズムをする人、熱心にメモを取る人、温かく見守る人と、思い思いに楽しく学び合うことができました。





分散会でさらに

深め合いました

保育所会議2日目の分散会では、各保育所の抱えている問題を出し合い、機構やビジョンへの追及、組織拡大などについて討論を深め合いました。

第1分散会では、病気の子を保育せざるを得ない現状が出され、保育委員会の重要性を認識する結果となりました。「企業と顧客」の関係ではなく、「保護者と保育士」の関係にな



第1分散会

っていないかなければならない。お母さんの職場は、人手不足で子どもを保育園にあずけ、デイズニerlandに「兄弟をあずけている母親が急に午後年休を取得して、連絡が取れず困った」「土曜に1人保育。職員は2人体制。しかも母親は休みを取っている」など、保育の受け入れ、連絡体制など一定のルール



第2分散会

より仕事が優先されている実態が出されました。また、ピジョン交渉では「連続休暇」を必ず勝ち取ろうと意思統一しました。

第2分散会では保護者の預け方と子どもたちの状況が多く出されました。「お母さんが子どもを保育園にあずけ、

作りが必要だと話し合いました。また組合との関係では「組合の執行委員会では月に1度保育所の状況を説明。要求を出すとすぐに対応してくれる」「組合が目に見える形で見えない。実感が無い」「保育所の設備要求が実現しそうだ。支部のアンケート調査、要求書提出で組合が病院を動かしてくれた」「園長会議は組織拡大するチャンス。園長が組合員となつて保育士に加入を勧めて100%に」など、今まで積み上げてきたものを継続・発展するためにも組織拡大が大切だと話し合われました。

第3分散会では、園児の健康診断について病院や担当小児科医との関係が上手くいかず、悩みを抱えた仲間から発言を受け、各園の状況を出し合いました。

また、園長先生方からSVとの関係の悩みも出されました。さらに、



第3分散会

子どもの安全について、24時間保育や長良の365日開園などと合わせて話し合われました。組織拡大では、「設備要求や賃金・労働条件でも言い続けているのは組合」「院内保育所の歴史を語り、保育の質を落とさずに、ピジョンに委託されても前進しているのは組合があったから」だから職場の中で語ることが大切だと話し合いました。



長良・桑原さん

その後、全体会に会場を整え、分散会報告とまとめを行いました。分散会報告は、第1を長良支部の桑原さん、第2を西別府支部の甲斐さん（2年連続！）、第3を米子支部の三宅さんが報告。「保護者会・保育委員会の役割を理解してもらおう」「有給での連続休暇を実現させよう」「保育園と組合、双方で歩み寄っていきこう」「かけがえない子育ての時期を保育園任せにしないよう、お母さんに語っていきこう」など、それぞれ話し合った内容を素晴らしいまとめ、発表して下さいました。



米子・三宅さん

師の働き方と保育園の問題が手に取るようにわかる会議だった。組合員と非組合員との差別化については永遠の課題。組合の大切さを地道に見せ、刺激しながらがんばっていきこう。健康診断はどの園でも必要最低限のもの。本部としても調査をして、第二共済やピジョンに対して個別の対応を図るよう働きかける」としました。



要求実現！団結がんばろう！

さらに、「3年連続増勢を迎えることができたのは、皆さんのおかげ。保育所も非特定化を見据えながら、2月15日の組織数基準日には過半数組織維持、そしてまた増勢でこの保育所会議が迎えられるようにがんばろう」

「『戦争できる国づくり』へ暴走する安倍政権を許さず、皆さんが大切に育て上げた子どもたちが戦場に行くことがないよう、平和のとおりくみも強めよう」とまとめました。

最後に岸田委員長の『団結がんばろう』、雨



実技講師の小内先生も参加して

のため会議室内で参加者全員の記念撮影を行い、散会となりました。

※ 機構本部要請行動は次号で報告します。

**保育所会議の交流会**  
**いつも楽しいね！**

7日の夜は、恒例の大交流会。香月書記次長・黒木中執の進行で楽しい時間を過ごしました。

地方協ごとの紹介では、南和歌山支部の久保さんが「ハグとハシカチ」の遊びを披露。みんなで優しくハグ

また、実技講師の小内先生も参加。「組合運動は福祉保育労に結集している。こんな集まりは素晴らしい。素晴らしい」と喜んで下さいました。

交流会後半は、テーブル対抗クイズ。

し合つて、交流を深めました。

定年を迎える名古屋支部の田中さん、再春荘支部の本田さんからは「第12回の保育所会議から参加してきた」「若い世代に引き継いでいきたい」とあいさつがあり、これまで全医労の保育所運動をけん引されてきた先生方に感謝と労をねぎらい大きな拍手が贈られました。



本気で遊ぶところが素晴らしい！

クイズに正解した班の代表が、つかみ取りの景品をゲットし大変盛り上がりました。

終了後は、六本木へ、巣鴨へ大塚酒場へと繰り出し、楽しい東京の夜を各自過ごしました。



南和歌山の久保さん「いつも楽しい出し物をありがとう」



西多賀の早坂さんと菅原さん



クイズ最多正解者・旭川病の坪井さん



ハンカチで「地球の皆さんこんにちは」



ハグするお相手は…？



クイズに答えて豪華景品をゲット

会議中、東京未来大学こども心理学部の西村先生より院内保育所アンケートの協力要請があり、皆さんにご協力いただきました。ありがとうございました。結果は後日報告します。